



ユニバーサル村 in 八ヶ岳 報告書

2023年9月29日～10月1日



NPOユニバーサルイベント協会

開催理念

多様な特性を持つ仲間たちと
共に自然農法の価値を知り
農業体験を行いながら
誰一人取り残さない
持続可能な社会づくりを
追求する。





ユニ村の開催概要



開催日程：2023年9月29日（金）～10月1日（月）
 開催場所：山梨県北杜市 キブツハウス 他
 参加人数：45名（一般参加32名、企業研修参加7名、
 ハケ岳現地参加6名）

主催：NPO ユニバーサルイベント協会
 協賛：株式会社 セレスポ
 株式会社 丹青社
 株式会社 つばきHOLDINGS
 株式会社 電通イベントオペレーションズ
 株式会社 電通ライブ
 株式会社 日企
 株式会社 UDジャパン（50音順）
 協力：一般社団法人 キブツハケ岳

プログラム概要

1 日 目	開村式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 始まりのあいさつ ・ スケジュールの共有と自己紹介
	きっかけコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 車いす使用、視覚障がい、聴覚障がいの方々へのサポート方法を体験
	畑での作業①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然農法の説明 ・ うねを作りニンニクの苗植え
	気づきの共有①	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに気づきの共有
	ダイバーシティ・バー①	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイレント・バー / ダーク・バー / まげこぜバー
2 日 目	ルームオブ・ダイバーシティ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動きの部屋 / 光の部屋 / 音の部屋 / ハケ岳の部屋の4つの部屋の話聞く
	畑でバーベキュー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 畑の傍らで、炭をおこし、バーベキューと歓談
	畑での作業②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 野菜の収穫体験 ・ 自然農の意味と価値の講話
	気づきの共有②	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとに気づきの共有
	ダイバーシティ・バー②	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイレント・バー / ダーク・バー / まげこぜバー
3 日 目	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気づきの模造紙に2日間の気づきを抽出 ・ 気づきをグループごとに発表（全員一言発表）
	閉村式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽パフォーマンス ・ 終わりのあいさつ



第1回「ユニ村in八ヶ岳」を迎えて

この度は第1回「ユニ村in八ヶ岳」にて、キブツ八ヶ岳運営のキブツハウスや農場をご活用いただき誠にありがとうございました。

正直、最初企画案をいただいた際には「勾配だらけの八ヶ岳で?」「築50年のキブツハウスで??」と、様々な点で不安しかなく状況でしたが、すべてが整備された都会やバリアフリー施設ではない環境でも、その場その場で皆で考え創意工夫をすれば、どんなハンディを持った方でも八ヶ岳滞在が可能なことは大きな発見でした。配慮された環境が少ないエリアだけに、配慮が必要な人との接点も、極端に少ない八ヶ岳。その中で今回、普段滅多に接することがない様々な個性を持つ方々と触れ合うことが

でき、八ヶ岳に住むメンバーにとっても大きな刺激となりました。

これを機にキブツ八ヶ岳でも、より多様性を受け入れられる社会づくりをしようと意識が高まりましたので、この機会をいただけたことに大変感謝しております。またの開催を心より楽しみにお待ちしております。



一般社団法人キブツ八ヶ岳
代表理事 滝沢泰平

多様な特性を持つ仲間たちと共に、持続可能な地球を守るひとつとしての自然栽培の価値を学び体験することを目的に、今年初めての試みとして「ユニバーサル村in八ヶ岳」を実施しました。

価値観の転換や新しい感性を磨く場として、八ヶ岳南麓は最適な場のひとつです。

そこで活動している「キブツ八ヶ岳」の皆さまのお力を借りながら、多様な仲間たちの話を聞いたり、なぜ自然栽培が重要なのかを、その実践者の方たちの熱い想いのこもった話と指導を仰ぎながら、多様な仲間たちと農業体験に取り組みました。見えない人と一緒に畝をつくり、土に触れてにんにくの植え付けをしたり、車いすの人にはどうしたら農業に関われるかを考えながら畑に入ってもらったり、泥のついた軍手

で手話をしながら笑い合ったり、広大な自然の中で解放されておいしい空気と野菜を堪能できました。

ご協力いただきました「キブツ八ヶ岳」の皆さま、本当にありがとうございました。



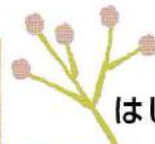
NPOユニバーサルイベント協会
理事長 内山早苗



開村式



朝、キブツハウスの大広間に集合してまずは開村式。初めての場所、初めて会う人、そわそわドキドキしながらも楽しい3日間が始まる予感。内山村長のあいさつで、みんなユニバーサル村の村民になりました。



はじめまして！



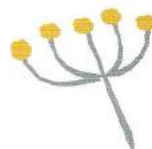
2階に10部屋、1階に約100畳の大広間がある開放感のある施設。



きっかけ・コミュニケーション



ユニ村最初のプログラムとして、3日間を一緒に安全に楽しく過ごすため、サポートの仕方やコミュニケーションのコツなどを聴覚、視覚、移動に不便がある当事者先生に教わります。



手話がわからない時はジェスチャーでOK。



スロープに挑戦。コツを掴めば自分より重い人でも上げられます。



見えない人を誘導する時は周りの様子を言葉で伝えます。





農業体験



午後はいよいよ農業体験。長靴を持って畑へGO！
 かつちゃん先生の自然栽培講座は「へえー」の連続！
 目からウロコが何枚も落ちたら、今度は実際にその土に
 触ってみる時間です。畝を作ってマルチ（黒いビニール）
 を張ったら、そこに穴をあけてニンニクを植え付ける作業
 です。土の耕し方、マルチのこと、穴をあける間隔、ど
 れも言葉で説明するのが意外と難しい。実際に触って
 もらうのが手っ取り早いという気づきを得ました。さて、
 ニンニクはいつ収穫できるのかな？



BBQ用の野菜の収穫もしました

振り返り



今日1日を振り返り、気づいたことや疑問に思ったこと
 などをグループ内でシェアをし、模造紙に書く時間
 です。気づきを言葉にして伝えること、人の気づきを受
 け入れることで、また新しい発見が生まれます。





ルーム・オブ・ダイバーシティ



何を質問してもOK。それがこのプログラムのルールです。キブツハウスの大広間に4つのルームを作り、グループごとに各ルームを巡り話を聞くプログラム。話をしてくれる人も参加者です。「集まって座る」というだけのルームですが、語られる十人十色のストーリーには今まで考えてもみなかった経験や工夫、異なる価値観、新しい視点など、気づきの種がいっぱいでした。



音の部屋 聴覚に障がいがある人の話を聞くルーム



光の部屋 視覚に障がいがある人の話を聞くルーム



動きの部屋 移動に不便がある人の話を聞くルーム



八ヶ岳の部屋 八ヶ岳に住んでいる人の話を聞くルーム



BBQランチ

腹ぺこで畑に到着してビックリ！丸い大きなBBQコンロには炭が赤々と燃え美味しそうな野菜とお肉がずらり。鉄板でしっかり焼いたもぎたてナスはトロリとジューシで大人気。野菜ってこんなに美味しかったっけ？シメは焼きそば、デザートに焼きマシュマロと大満足の贅沢ランチをいただきました。



収穫体験

ニンジンやナス、ピーマンの収穫体験をさせていただきました。肥料もお水もあげず、自然と対話をして育てる畑と野菜たち。畑から抜いたばかりのニンジンをかじってみたら、懐かしく豊かな自然の味。苦手だったけれどこれは美味しい！という声も。生のピーマンもガブリ。こんなに瑞々しいなんて！たくさん収穫させていただき、みんなニコニコ。とびきりのお土産になりました。ありがとうございました！





気づきの発表と共有



SDGs、ダイバーシティ&インクルージョン、自分の居場所、最高の誕生日、無農薬・無肥料、自然栽培、美味しいごはん、仲間っていいね、笑顔、ひとりひとりが大切な自分、勇気・・・

2日間、思ったことを書き留めた模造紙には、班の名前を中心に沢山の気づきで溢れていました。最終日である3日目は各班、皆の前に立って模造紙を持ち、各自の気づきについて発表する時間がありました。参加者は一人ずつコメントをし、最後に班長がまとめを発表しました。



参加者からは、「特性を持った人から直接話を聞いて良かった」「手話に興味を持った」「野菜の力強さを知った」「農薬が与える影響を知った」「野菜本来の味は美味しかった」「自分の居場所を見つけた」など、たくさんの気づきの発表がありました。

修了式



修了式では、冒頭、参加者のひとりが急遽ウクレレを演奏してくれました。曲は、中島みゆきの「時代」。サインパフォーマーでもある手話通訳さんも急遽参戦。演奏を聞いていた人たちも、スマホで歌詞を見ながら歌い始め、参加者全員の心が一つになったとても素敵な時間でした。



その後、内山村長による閉会のあいさつがあり、お世話になったキブツハウスのスタッフや八ヶ岳の皆さんへお礼を伝えました。村長の「このイベントをやりたいと声に出すことで、いろいろな人の協力を得て実現することができた」というお話を聞き「勇気を出して声に出すことの大切さ」を改めて感じました。

宿のごはん



3日間を通し、宿のごはんは野菜がいっぱい。食べられる分だけ自分で採ります。「美味しい!」「こんなにたくさん野菜食べる事ある?」「お腹いっぱい食べても罪悪感なし!」笑顔はじけるごはんタイムでした。



毎日、美味しいごはんをありがとうございました! ご馳走さまでした!

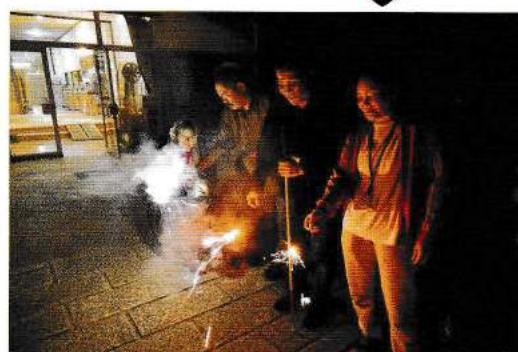
夜の懇親会・ダイバーシティ・バー



宿の生ビールはキンキンでした



夜な夜な行われる懇親会。でも、ただ飲んでいるわけではありません。アイマスクをしてコミュニケーションを楽しむダークバーでは、視覚障がいの参加者に、こぼさない方法やお菓子の渡し方などを教わりました。



花火を持ってきてくれた人ありがとう!



音声禁止でおしゃべりを楽しむサイレンスバーも、ジェスチャー、筆談、手話などを駆使し、静かに、でも熱く盛り上がっていました。



お誕生日のふたりにサプライズ☆



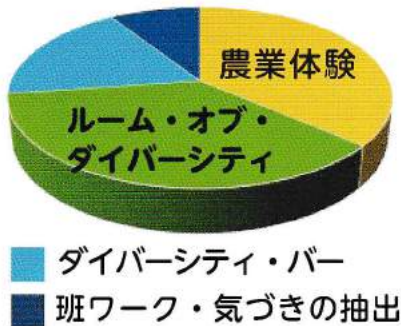
参加者アンケート



また参加したいですか？



最も興味深かったプログラムは？



キブツハウスや自然農法の印象は？



車いすの人は畑に入って一緒に作業するのが難しかった。どうしたら良かったのだろう。一緒に何かしたいもどかしい気持ち。植え付け前のニンニクの皮むきは一緒にできた。

いつもより神経を研ぎ澄まして楽しんだけど、普段から視覚に頼っていない人たちの感覚ってやっぱりすごい！



何をするにも楽しむことを忘れない気持ちって大切。



生まれながらの障がいを受け入れ強く生きる方の逞しさや中途や後天性などでまだ受け入れられない方の苦しみにどのように寄り添えば良いのか考えさせられた。



グループメンバーの気づきや考え方を聞くことで、自分の気づきが深まってきました。



森泉 由美子さん

ユニバーサル村in八ヶ岳は、様々な命の物語をもった方たちが、一同に集まってまざりあい一緒に食事しお風呂に入り自然農法を体験し、お酒を酌み交わして対話して一緒に眠ります。

参加者の皆さんは、目が見えない、音が聞こえない、手足が思うように動かない、体が小さい、そういったご自身の姿を見せて言葉で語ってくださいます。誰か一人が語るのではなく、皆が平等に語るよう細かい配慮が施され、私はそこにいて、人の命の物語や体に触れることの尊さ、幼い頃の自身の心の傷を次々と思い出し、そのたび胸が震えて隠れて泣いたり息を整えたりする始末でした。初めて参加したのにここが帰る場所になり、解散してまだ1か月ですがいつも皆に会いたくてたまりません。



梅山 晟さん

株式会社 電通イベントオペレーションズ

普段障がいのある方と接する機会がほとんどないので今回の3日間、自分が知らないことだらけの世界ですが、一緒に生活したことで、新しい発見と非常に多くの学びを得ることができた。

畑作業やBBQ、ルーム・オブ・ダイバーシティ、ダイバーといったコンテンツを通じて、当たり前のことではあるが、自分の「普通」と周りの「普通」が異なることを改めて感じ、自分には甘えや言い訳をして逃げている部分があるなと痛感した。

自分のやりたいことや興味があることに対して、もう少し積極的にまっすぐな気持ちで挑戦していくメンタリティを磨いていきたいと強く思った。

周りにいる人たちが、手話だけで会話している世界は、外国にいるときに感じた「寂しさ」とちょっとした「疎外感」を感じた。これをきっかけに少しずつでも興味を持って身近なものにしていきたい。



西國 寛章さん 株式会社 電通イベントオペレーションズ

ダイバーシティ&インクルージョンとは、多様な人材を活かし、その能力を発揮できるようにする取り組みだと学びました。障がい者への「思いやり」の配慮、配慮のタイミングが重要だと感じました。

私は今まで、障がい者に対して「同情」で配慮を行っていました。ですが、今回の研修を通して「思いやり」をもって配慮する重要性を学ぶことができました。共に生活する中で、障がい者の方は、過度に心配され、助けられることを嫌がっていました。

「自分でできることまでやってほしくない。助けてほしいときは声をかける」と言われ、障がい者の方をかわいそうと思い何でも助けが必要と思っていた私の気持ちに変化がありました。

相手の意思に関係なく助けることは助けにならない、相手がどんな時に助けてほしいかを考え、そのあったタイミングで行動をとることが重要と学ぶことができました。



林 克矢さん ハヶ岳ピースファーム株式会社 農場長

今回、ユニ村inハヶ岳に農業担当ということで関わらせていただきました。農作業は普通に作業をするだけでもかなりの重労働になりますが、それを体に不自由さをもつ人が農作業をされるとどうなるのか心配でした。しかし、実際に農場に来ていただくと、確かに大変ではあるのですが、畝を作ったり、種を蒔いたり、野菜を収穫したりすることができ、普段は考えたことのない視点で物事を見ることは、自分自身の勉強になりました。

自然栽培は無農薬無肥料で野菜を育てることですが、農業に関心がない人からすると、肥料がなくてどうして栽培できるのかと疑問を持つことと思います。理屈で説明すれば植物

の根っここの話や土づくり、微生物の活動のおかげといえますが、そんな理屈よりも実際に農場に来てもらい、実際に野菜ができていることも見てもらえたら話が早いのです。そして、生で食べられるものはかじってもらい、普段食べている野菜との違いを感じてもらいました。

ありがたいことに、「野菜のエネルギーが高い」と言われることが多くありますが「目が見えない人」にそう言ってもらえたのは格段に嬉しく、自分が日頃やっていることが報われたような気持ちになりました。そして自分のやっている活動を多くの人に届けたいという想いがより一層強くなったこの3日間でした。

久保田 信一さん

先日のユニバーサル村inハヶ岳では、移住者としてお話しさせていただきました。他の方々のお話も聞いたところ、同じ移住者といってもハヶ岳に来た経緯、やりたいこと、感じ方も人それぞれに違って興味深く聞きました。

また、ここには目の不自由な方々、耳の聞こえ難い方々、車いすの方々なども集まりお話しさせていただきました。そこで感じたのは、盲とか聾とか障がいということで括れない一人ひとりが居ることでした。同じような障がいを持っていても一人ひとり感じ方考え方があり、困っている内容も違うし、性格

も違えば、私達というか私の対応もその人その時で違って当然なのだ。困っているのに言い出せない人もいれば、こちらが良かれと思ってやったことが煩しかったり。こちらの思い込みではなく、どんな時でも対話から始めようと思った次第です。障がいがあるからかわいそうな人ということではなく、同じ地平に立つ人として見るということです。

一見普通の人に見えてしまう発達障がいの人もそうですが、話を聞く中でどんな人が考えできない所ではなくその人の良いところ、面白いところに目を向けていきたいと思いました。

若月 由美子さん (エッセイより抜粋)

コミュニティハウスのいつもの120畳の大広間には、10人ぐらいが囲める4つのテーブルが用意しており私は「ハケ岳移住者の部屋」ということになっていた。

自分が話す番が来るまで、他の部屋の話が聞けた。まず「光の部屋」。登壇者の隊長さんは、音楽活動やコンピュータプログラミングの仕事をしている。視覚障がい者用のアプリを入れていて、ものすごい早口（私には全然聞き取れない）の音声を聞きながらPCを使っているのにびっくり！ 今までした一番怖い体験はという質問の答えは、駅のホームから転落したこと、とのこと。やはりホームドアは必要なのだ。

動きの部屋の講師はどんなことが嫌ですかと

いう問いに、大袈裟に構われること、とのこと。車いすの人が通りますからみなさん道を開けてください、とか。かわいそうは全くない、という。

音の部屋では、聴覚障がいは、視覚や身体障がいの人よりも実は遥かに大変なのではないかということに初めて思った。

最後は私の番。みんながとても熱心に話を聴いてくれていることに気がついた。話に耳を傾けるだけでなく、人の動きにも関心を払っている。普通はそんなに熱心に人の話は聞いていないし、動きにも無関心な人が多い。とても温かい空気に、翌日も参加！ 来年も是非開催してほしい！

山崎 ゆか裡 さん

今回、内山さんにお声かけいただくまで、ユニバーサルイベント協会もユニバーサル村のことも知りませんでした。最近、話題では耳にするダイバーシティ&インクルージョンのことも、SDGsのことも頭をかすめる程度の知識で、あまり深く関わるものがなかったと思います。

ユニ村イベントでは、いろいろな障がいを持つ方々がブースごとにお話する部屋に参加させていただき、今まで考えたこともなかった発見がたくさんありました。たとえば視覚障がいの方のブースでは、「視覚情報がないとはどういうことか」を考えさせられました。ある方が「夢はどのように見るのですか？」と質問されて、そこにハッとしましたのです。そうか、夢も視覚情報だ。

生まれつき「見る」ことがなく、映像としての情報を持たない方はどのような世界を生きているのか、今まで考えたこともなかったことに気づいたのです。

次に聴覚障がいの方のお話を聞いていて「障がいってなんだろう？」と思いました。聴覚が弱くても大学を出て、一流企業にお勤めの方には「障がい者」の枠には括られないように私には思えます。

人は誰も生きづらさや何かしらの困難を抱えているものだと思います。

ユニバーサルという言葉も、その「特別枠」を取り払うということなのではないかと考えさせられました。とても良い経験をさせていただき、ありがとうございました。



中塚 雅恵さん 株式会社 電通ライブ

小学生に戻って、誰も知っている友達のいないサマーキャンプに参加してみたら、個性に溢れた新しい友達ができている、そんな楽しい3日間でした。

年齢も職業も住所も障がいの有無も、何もかもが違う方々と初めましてで出会い、最初は気恥ずかしさを感じていましたが、個性豊かで心優しい参加者の皆さんと衣食住をともにする中で、普段の生活の中では見つけられない多くの気付きがありました。

なにより、障がいの有無にかかわらず、相手に対しても思いやりを持って接することが大切だという、小学校で誰もが習うことに改めて気付かされました。

聴覚障がいの方に手話で自己紹介をする楽しさを、肢体障がいの方におしゃれの楽しみ方を、視覚障がいの方に景色が見えなくても旅行や散歩が楽しめることを学んだことは、3日間の思い出とともに大切な財産です。



松村 道生さん (感想より抜粋)

今回農業体験をさせていただいたのは、自然農法で育てられた野菜の収穫や畑づくり。ほとんどの参加者が初めて行う体験を障がいなどの特性を考えながら一緒に行ったり分担したりといった体験は、ユニ村ならではのものだった。

もちろん、そのようにして収穫した野菜のおいしかったことはいうまでもないが、それは自然農法で育てられたことも大きな要因かもしれない。話を聞いた中で印象的だったのが、あえてこまごまと世話をしないということだった。

野菜は、肥料や水を多く挙げってしまうと、自分で栄養や水分を摂ろうとする本来の力をなくしてしまい、結果としてすぐに枯れやすくなってしまうのだという。

自然農法ではあえて肥料や水分を与えず、野菜

本来の力を高めることで、結果として野菜本来の味になるとのことだった。

私はそれを聞いて、これは野菜だけのことでなく障がい者にも当てはまることだと感じた。障がい者の多くはとかく周りから助けをもらうことが多い。それはとてもありがたい一方障がい者のエンパワーメントを下げってしまうことにもつながっていると感じていたからだ。

障がい者のエンパワーメントが下がってしまうと自分では何もできなくなり、結果として、自立した生活が送れなくなってしまう。

私は今回の農業体験を通して、野菜にも障がい者にもエンパワーメントを高めることが大事だという、思わぬ共通点があることを知ることができた。

久保 行雄さん

株式会社 つばきHOLDINGS

気がつくのと、とても心地良い疲れを感じながら、帰路の特急あずさ26号のリクライニングシートに身を委ねていました。

第1回「ユニバーサル村in八ヶ岳」に参加しました。ユニキャン八丈島も含め、交流イベントには初参加でした。

職業柄、2000年代初めからユニバーサルデザイン関連の業務に従事し、その概念や理念は理解していたつもりでしたので、こと更に参加目的や修得したいことを明確にせず参加しました。

ところが、2泊3日で様々な特性をもつ仲間たちと生活を共にし、慣れない農作業を共同体験することで、他者との違いに大いに気づかされ、知見と体験の違いを実感しました。普段の生活では、気づきということに格段留意したことがないことにそれ



こそ気づき、相互理解の始めの一步（きっかけ）が気づきであると思い知りました。

車いすの正しい使い方、視覚障がい・聴覚障がいの方々へのサポート方法の体験もさることながら、農作業を終え、共に風呂に入り、旨い酒を酌み交わしたことがとても日常で、とても普通で最高でした。

締めとして、きっかけと気づきとそれを仲間で共有できたことに感謝です。

柴田 留理 (スタッフ・MC)

私は、今回運営スタッフとして参加させていただきました。初めて八ヶ岳で「ユニバーサル村」を開催したので、前日までの（いや当日も）準備は正直ドタバタでしたが、このスタッフメンバーであればなんとかなる、という気もしていました。なぜなら、スタッフのチームは風通しが良く、お互いを信頼できていたからです。

当日は司会をやらせていただきました。実は、運営スタッフも、司会も、自分から手を挙げてやったわけではなく、他の人に言われてやった感じになってしまったのですが、結果として、やって良かったと思えました。

司会としてスケジュール確認や調整等、必然的に様々な人とコミュニケーションをとることが必要だったので、様々な人と交流ができたことが良かったです。一方で、時間通りに進められなかったり、必要なときに必要なタイミングで伝達できなかったり、お伝えしたほうが良いと思ったことを伝え忘れていたりして、参加者やキブツハウスの皆さんには多くのご迷惑をおかけしたと思います。この場を借りて、お詫び申し上げます。

皆さんのご協力やご支援のおかげで、無事に本イベントを終えることができました。ありがとうございました。



感謝の想い



多くの方々のお力添えと、知りたい・伝えたいという参加者の皆さんの想いによって第1回目となるユニバーサル村in八ヶ岳を開催することができました。心より感謝申し上げます。今後ともNPOユニバーサルイベント協会をどうぞよろしくお願いいたします。

ユニ村実行委員会 一同

NPOユニバーサルイベント協会について

NPOユニバーサルイベント協会は、誰もが安全、安心、快適に参加できるユニバーサルイベントを、多様な能力や特性を持ったメンバーと一緒に企画、運営しているNPOです。

「ユニバーサルキャンプin八丈島」、手話サークル、ユニバーサルスポーツなどのイベント開催
ユニバーサルスポーツ・コーディネーターの育成、ユニバーサルイベントに関する研修・講演・出版・調査などに取り組んでいます。イベント情報等については、メルマガ配信、Facebookまたはウェブサイトでお知らせしております。



協会活動およびイベントの実施にご協力いただける方を募集しております。

スタッフとして、また協賛や賛助などで一緒にユニバーサルイベントを創り上げてみませんか？

会員パートナー

正会員：本会の目的に賛同し、活動に参加していただける法人・団体または個人

法人：100,000円／年 個人：12,000円／年

賛助会員：本会の目的に賛同し、活動に協力していただける法人・団体または個人

法人：50,000円／年 個人：7,000円／年

協賛パートナー

主に企業などで、ユニバーサルイベントの実現・普及を以下の面から支えてくださる方
資金面での援助 / 物品・サービス等の面での援助 / イベントへの研修参加

UEA
手話
サークル

「手話を学んでみたい」「ユニバーサルイベントを少し体験してみたい」
方のために、ユニバーサルイベント協会では無料の手話サークルを開催し
ています。

日時は毎月おおむね第3金曜日の夜7時から1時間。

東京三田でのリアル開催とオンライン開催があります。

興味のある方はinfo@u-event.jpまで、是非お問合せください。

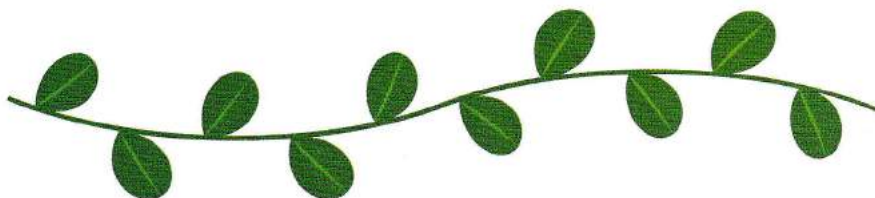
NPOユニバーサルイベント協会

〒108-0075 東京都港区港南2丁目12番27号イケダヤ品川ビル3F

TEL: 03-5460-8858 FAX: 03-5460-0240

MAIL: info@u-event.jp URL: <https://u-event.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/uevent.jp>



発行・編集：NPOユニバーサルイベント協会 ユニ村実行委員会